

## 学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】

(3年 宮川朋大)

KAGURA棟は、間口9.5m、高さ約9.5m、奥行き35.5mの切妻の建物である。縮尺が20分の1で全長17.50m、大人の身長ほどの模型を作っている。これだけ大きな模型を作ってみて、丁寧に作業を行っていたことがとても大切だと感じた。

少しのずれが進行の足止めになることもある。現地に行くまでは、改修前の図面をもとに作っていたため、改修された実際のものとは違う基礎を作ってしまった。改修前と後の違いを確認しながら、ずれを調整す

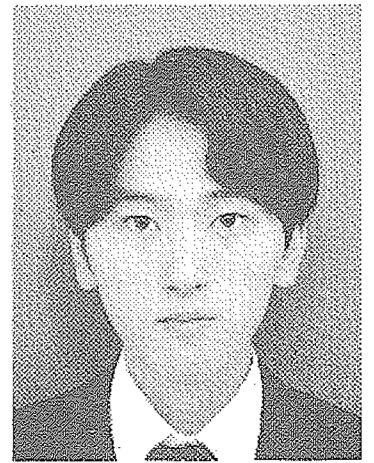
## 模型で考える伝統と更新③

るのに手間取った。また、現地に行く前と行った後では全然違って、完成形を想像することができるようになり、現地を見ることの大切さを感じた。

さらに、共同作業で模型を作っていくと、こだわりの強さの違いがでる。



丸太状の梁の加工



【アピールポイント】  
人間観察が好きです。海外に行き、さまざまな人と景色を見たいと思っています。英語はあまり話せません。

私は、部材の長さが足りなかった場合、新しく作り直したいと感じるが、小さなものを繋ぎ合わせても完

成したらあまり変わらないだろうという考えもある。この模型を作っていく中

## 細部をこだわる難しさ

### 現地訪問の重要性

共同作業のため、同じで、私はこだわりの強い方じ考えでつくるのはなので、大学生のうちに大難しいが、自分が好きなものを作って自分の財産とできるようにしたいと

は自分のこだわりを強く思った。完成度の高いものにしてきたいと思ってい

また、切妻の家形フレームが繰り返して連続するため、高さや位置のずれはごまかしがきかず、この建物の形状ならではの苦労がみられた。建物を作る際には、多種多様な技能が求められ、なかなか一人でつくりあげることが難しい。同じ価値観をもったチームを、いつでもどこで動き出すか分からない不動産の現場ごとに、繰り返して編成することも現実的ではない。これは建築工事で合理化がすすみにくい要因として

【訂正のお知らせ】新聞記事の一部に誤りがありました。

誤：不動産の話題 [86]

正：不動産の話題 [87]